

千葉県公立学校事務長会

平成22年度 事務長研修会

日時 平成22年10月20日（木）

場所 県立千葉女子高等学校 大会議室

演題	発信し続けるべき、＜学校事務室＞の教育的機能 －「学校事務センター」設置に至るプロセスで再確認された課題－
講師	神奈川県立高等学校長会 神奈川県立横須賀高等学校 校長 諏訪部 泰樹
	※＜学校事務の集中化＞を図る「学校事務センター」設置の経緯から （１）平成18年6月、＜学校事務の集中化＞に係る諸課題が、県教育庁総務課から 県立高等学校長会に提示され、基本問題検討特別委員会と人事給与委員会が 構成され課題について検討・協議が開始された。 （２）＜学校事務の集中化＞構想 ①学校事務業務の精選整理に基づいた円滑な業務遂行モデルの追及 ②適性でより効率的なマンパワー配置 ③県下各10地区に＜地区学校事務センター（仮称）＞を設置 （３）校長会は特別プロジェクトを編成し、①学校実態の集約と整理②各設置別学校 個々の課題を掌握した結果、学校実態の格差の多様性、課程間格差、高校と 特別支援学校の実態乖離等様々な課題が出てきた。 （４）「学校事務集中化」に係る諸課題について（第1次提言）、（第2次提言）、（第3次 提言）を経て、今日に至っている。 詳細については、パワーポイント資料『学校事務センターの開設について』 『県立高校の「学校事務集中化」について』を参照 ※まとめ 校長は提言をしてくれる事務長を求めている。 議論をしなければダメ。 業務の改善、提案をしなければダメ。 事務室が、事務長会が子どもたちを中心にして何をなすべきか、何ができるか。 事務長は思い切ってやる。

	事務長の背中を見て、事務職員が育つ、教員が育つ、生徒が育つ。 学校経営のリーダーが今までの意識を変える。 出来ないことは出来ないとはハッキリ言う。 失敗を恐れなくて違った窓を開ける。
演題	職場のメンタルヘルス
講師	鎌取メンタルクリニック 西尾正人氏
	社会全体が物理的なストレスに弱くなっている。 背景には ※ 技術革新、アナログ技術⇒デジタル技術、IT技術、他社との開発競争、グローバル化、成果主義、企業買収・合併、コスト削減⇒海外進出・生産・販売拠点の海外進出・海外赴任者の増加、生涯一企業の否定、不況、就職困難 ※ 過重負荷 ストレス・メンタルヘルス問題の増加⇒抑うつ状態・うつ病・過労自殺・過労死・仕事や職業生活で強いストレスを感じる者の増加 ※ 生活様式や社会全体の変化 個人志向性と人間関係等 うつは、心の風 最近のその人の変化を見てあげて 頑張るエネルギーはどこかにしわ寄せが来る⇒アルコール等 休養と気分転換が必要 仕事は出来なくても自分の好きな事は出来る 性格が悪い、怠け、などと攻めないようにして 診断書 教職員で医者にかかる時は、休むのを前提にして連れて来られると診断が難しい。 診断書には本当の病名を明記しない場合もあります。（プライバシーを含め本人の将来も含めた不利に配慮して） 詳細については、本人に了解を得て主治医と話すことを薦めます。